

自己評価報告書 学校関係者評価報告書

平成27年度

I 教育目標

- (1) 学校法人 愛知産業大学建学の精神
- (2) 愛知産業大学三河高等学校全日制課程の教育目標
- (3) 愛知産業大学三河高等学校全日制課程の教育指導方針

II 重点目標の達成及び改善方策

- (1) 教 務
- (2) 指 導
- (3) 総務・渉外
- (4) 学 年
- (5) 事 務 局

III 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

IV 平成27年度 学校関係者評価委員会報告

I 教育目標

- (1) 学校法人 愛知産業大学建学の精神

「社会から喜ばれる知識・技能を有し、歓迎される人柄を兼ね備えた人材を育成し、英知と勤勉な国民性を高め科学技術文化の発展に貢献する」という学園の建学の精神は、創始者である水野恒治先生の目指す教育が凝縮されている。平成23年に「豊かな知性と誠実な心を持ち、社会に貢献できる人材を育成する」に改定されたが、根本精神は新しいものに踏襲されている。

- (2) 学校法人 愛知産業大学三河高等学校全日制課程の教育目標

- ① 生徒は、建学の精神をより身近な言葉で表した「誓いの言葉」を毎朝唱和することにより、その精神を実践する。
- ② 校訓「感謝」「礼儀」「誠実」「積極」「努力」のもと、学校を人格形成の場と位置付け、感謝の念に富み、礼儀正しく、誠実かつ積極的に努力する人材の育成に力を注いでいる。
- ③ 毎月月訓を定めて、生徒により具体的な目標として意識・実践させている。
4月「高校生の自覚」、5月「遵法」、6月「誠実」、7月「努力」
9月「礼儀」、10月「積極進取」、11月「読書」、12月「感謝」
1月「希望」、2月「反省」

(3) 愛知産業大学三河高等学校全日制課程の教育指導方針

・学習指導方針

- ①学習に対する積極性を養うため「よく分かる授業」に心掛ける。
- ②教材の精選と基礎力の習得により「実力は努力から生まれる」をモットーに、やればできるという意欲を持たせるように努める。
- ③進路別、習熟度別学級編成により、きめ細やかな指導を行う。
- ④普通科は、国公立大学・難関私立大学・県内私立大学進学のために基礎学力の向上と大学入学試験に対応した実践形式演習を行う。
- ⑤電気科・情報処理科は、主要3教科の基礎学力の充実と、早期の取り組みによる専門教科の学力・実技力の向上を図る。

・生活指導方針

人間性の育成が最も大切であると考え、「周囲の人々から愛され、信頼される人間」の資質を作るために、

- ① 報恩感謝の念が強く、義務と責任をわきまえた誠実な生徒を育成する。
- ② 躰教育に力を入れ、マナーの良い生徒を育成する。
- ③ 部活動の参加を奨励し、明朗で幅広い人間性を備えた人材の育成に努める。

II 重点目標の達成及び改善方策

(1) 教 務

重点目標	年度末評価
<ul style="list-style-type: none">・基礎学力の向上を目指す。・就職内定率3年連続 100%の達成。・3年生第2種電気工事士免許保有者75%以上。・高難易度資格取得。・3年生情報処理検定ビジネス部門合格率60%以上。・進路実績の向上を進学科と担任の連携のもと図る。	<ul style="list-style-type: none">・1年生は基礎学力の向上が見受けられたが、2年生は今一層の努力を要する。・11月に全員内定し目標を達成した。・第2種電気工事士免許保有者は70%であった。・第1種電気工事士42名の合格、第3種電気主任技術者2名の合格とともに県内1位の成績を収めた。・合格率62.2%で目標を達成した。・国公立大学10名合格。南山大学、愛知大学、名城大学、中京大学59名合格で進学校化の実績が上がってきた。
改 善 方 策	
<ul style="list-style-type: none">・学力下位層の生徒は、個別に対処する。また各科創意工夫した授業を考え、レベルアップを図る。・就職希望生徒は反復学習の必要性を強く感じるので、SPI試験を導入する。・携帯(スマホ) 便利器具の使用法とコミュニケーション不足の関連を研究する。・電気科生徒の部活動と資格指導の両立を図るため、授業内容に資格指導を盛り込み補習時間の効率化を図る。・未取得者の補講授業の実施及び指導を個別に行う。・上位級に向けた学習指導・受験の励行を行う。・難関私立大学合格に向けては、授業レベルを維持し、家庭学習を充実させれば自ずと達成可能である。・普通科の進学校化に伴う授業の質の向上に努める。	

(2) 指 導

重点目標	年度末評価
<ul style="list-style-type: none">・正しい身だしなみ、制服の着こなしを指導する。・いじめを撲滅する。・スマートフォンや携帯電話の取り扱いマナーの指導を行う。・学校行事を生徒主体で積極的に行う。・ボランティア活動に積極的に参加できる環境を作る。・全国大会出場3部以上、県総体出場5割以上を目標とする。・生徒の心身の健康状態を日頃からの的確に把握し、問題の早期発見・早期対応に努める。・学級担任等と連携した組織的な健康観察、救急処置、健康相談、保健指導を行う。	<ul style="list-style-type: none">・制服着こなしセミナーや定例の身だしなみ指導で繰り返し指導に当たった。・様々な角度から生徒の把握に努めたが、今後も引き続き継続して指導を行う。・校内では電源を切ることを徹底したが、校外でのマナー指導も必要である。・文化祭等の従来を担当行事はもとより、体験入学会など多くの学校行事で生徒が主役となって実施できた。・昼の放送で案内し、専用掲示板を作るなどした。献血、施設訪問など参加者が増加した。・全国総体出場4部（柔道・アーチェリー・少林寺・ボクシング）県総体8割達成。・情報収集に努め、関係する教員と連携し、早期対応することができた。・受診の必要性の有無を判断し医療機関へつないだ。生徒の自己管理能力の向上に努めた。
改善方策	
<ul style="list-style-type: none">・生徒指導では、生徒との関わりあう時間を大切に、SOSやファーストファウルを見逃さない意識をもつ。・全校生徒が生徒会の一員としての自覚が持てるような企画を立て、積極的に参加できる環境を作る。・学校生活における部活動の意義、必要性の啓蒙活動実施する。・部活動生が他の模範となる指導の実施、更には生徒会活動などへの積極参加を促す。・部活動清掃を通し地域社会に貢献する。・ボランティア活動、地域の催しに参加する。 <p>(保健)</p> <ul style="list-style-type: none">・生徒の状態を的確に把握するため記録に残し、対応を分析する。・感染症（インフルエンザ）に対する予防教育の充実。・保健に関する情報収集や研修に参加して専門性を高め、生徒対応に役立てる。・生徒の状況が悪化する前に、カウンセラーと生徒の面談を行う。	

(3) 総務・渉外

重点目標	年度末評価
<ul style="list-style-type: none">・教室等の環境整備を行う。・LL教室・視聴覚教室の有効活用と施設、備品の保全。・職員コンピュータのセキュリティ対策の実施。・生徒募集に関する印刷物やDVD等の企画立案、制作。・外部への本校の魅力発信を行う。・年3回の中学生体験入学会で多くの中学生に本校を知ってもらおう。・入学生(推薦、一般)の募集定員を確保する。	<ul style="list-style-type: none">・生徒机椅子、教卓、清掃ロッカー、傘立て・カーテン等更新した。・放送設備不具合は早期発見で対処する。・各教科、中学校で利用しており、教師側の教授運営の効率化とともに、徐々に学習成果も上がっている。・夏休み・2学期の合間を利用して、全て終了した。・各部署の要望を取りまとめ、印刷物、DVD、企画に反映できた。・学園広報誌、かわら版、新聞等のパブリシティを利用し部活動の戦績、検定成果を伝えた。・参加者数中学生 1,399 名、保護者 192 名と年々増加の傾向にあり、本年の推薦入学者の約7割が参加していた。・各中学校の理解を得て募集定員に近い生徒が入学していただいた。
改善方策	
<ul style="list-style-type: none">・生徒机椅子更新をきっかけに、ものを大切にする心を育ませる。・LL、視聴覚教室は、職員の責任のもとで使用、異常は報告する。・職員コンピュータのセキュリティは、インテックの管理のもと実施する。・生徒、教員ら現場の声を学校案内等に反映。印刷物、DVD等にリアリティを出し広報活動を進めていく。・体験入学会では入学後の授業により近づけた授業内容とし、本校への入学志望が高まるようなものにしていきたい。・各中学校に対し、よりきめ細かい情報が提供できるように努める中で、さらに能力の高い生徒が入学していただけるように努力する。・各中学校との信頼関係のさらなる充実を心掛けるとともに、より多くの受験生に選ばれる校風の確立に努める。	

(4) 学 年

重点目標	年度末評価
<ul style="list-style-type: none">・欠席率 2.0%以内を目指す。・退学者数の減少に向けて各学年団の教員を中心に指導する。	<ul style="list-style-type: none">・各学年とも、0.71%～1.2%の欠席率で目標を達成することができた。学校生活において、しっかりした目標を持たせることが大切である。・全学年で 1.4%であった。在学生在が全員卒業するように今後も努力する。
改善方策	
<ul style="list-style-type: none">・欠席した生徒は、しっかりと保護者に状況を確認するなど、保護者との連絡を密にする。・個人面談を定期的実施して、ドロップアウトに繋がる要因がないかを早く見つける。・それぞれの科・コースに合わせた適切な課題を、教科担当を通して継続的に実施する。・家庭学習の習慣化を確立させる。そのために家庭学習ノートをもたせ、毎日必ず取り組ませる。(翌日担任チェック)・生徒面談・三者面談等通じ、生徒の進路目標を明確にすることにより、高校卒業の必要性を保護者・生徒共に共通認識として持たせ、転退学を極力防ぐ。	

(5) 事務局

重点目標	年度末評価
<ul style="list-style-type: none">・業務の効率化・分担化を図り残業ゼロを目指す。・中学・高校とのデータ共有。・姉妹校（愛産大工業）との事務研修会開催。	<ul style="list-style-type: none">・就学支援金、授業料軽減、及び奨学給付金業務に関し、多忙時に煩雑になり、達成できない時期があった。・学籍管理、授業料管理等のデータは中学・高校個々に管理している。これらを共有、若しくは一元化した。・昨年度、開催し両校の問題点等が共有でき、役立つことができた。次年度は実施したい。
改善方策	
<ul style="list-style-type: none">・データ共有については、少なくとも同じソフトにて管理をする。・毎年最低1回は事務研修会を開催し、両校の現状に対し、あらゆる面から業務の進行状況を確認し、方向性を考査する。	

Ⅲ 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

- ・各部署に於いて達成項目・未達成項目はさまざまであるが、学校としては1年間それぞれの部署で重点目標を意識しながら取り組むことが概ねできた。中でも、普通科の進学校化と電気科・情報処理科の安定的生徒数確保が喫緊の課題であることは言うまでもない。私学として、建学の精神の具現化と具体的目標の達成が世間の評価対象になる。

その方策として、

- ① 実力判定テスト、SPI試験、スタディーサプリ等を活用した生徒の基礎学力アップ
- ② 生徒主体の生徒会活動の活性化
- ③ 進学・就職の出口指導の徹底
- ④ 地域に根ざしたボランティア活動の活発化
- ⑤ 計画的な施設設備の刷新
- ⑥ 斬新的な広報活動
- ⑦ 各種国家試験、検定試験の取得率、合格率の向上による専門的知識・技術の習得等々本年度示された課題について、来年の改善項目・改善方策として繋げていく。

IV 学校関係者評価委員会報告書

1 学校教育目標に対する意見

- ・高い教育目標を掲げて評価できる。
- ・「地域に根ざした産業教育、実務教育」はどのようなところで生かされているか。
→ 電気科、情報処理科の国家試験・検定試験への取り組みや実習科目を中心に技術の習得に取り組んでいる。又、地元企業への就職により地域経済への貢献を心掛けている。
- ・今後も地域との交流を進めていただきたい。

2 教務に関する自己評価への評価・意見

- ・特に意見はなく、取り組み及び自己評価は適切であると判断できる。

3 指導に関する自己評価への評価・意見

- ・通学途中でも、スマホをしている高校生、読書している高校生、勉強をしている高校生等高校によってさまざまである。生活面から、社会に対応できる人間を育てていただきたい。(生活指導の強化)
- ・部活動の地域交流は評価できる。
- ・名鉄藤川駅の生徒指導を熱心に行っている。私学としての厳しい姿勢があると感じられる。

4 総務に関する自己評価への評価・意見

- ・卒業式の式辞に感銘を受けた。(佐藤一斎の言志四録を引用)校長の学校に対する熱い想いが感じられ、それが式に於ける生徒の態度にも表れている。
- ・皆勤で卒業する生徒が多い。家庭との協力が生かされている結果であると感じる。

5 学年に関する自己評価への評価・意見

- ・基礎学力の向上や欠席率、転退学率の減少を目指して、改善方策の実施に努めていただきたい。

6 事務に関する自己評価への評価・意見

- ・特に意見はなく、取り組み及び自己評価は適切であると判断できる。

7 その他(全般)意見

- ・地域交流同好会や放送部・ボランティアが、学区内納涼祭り、防災訓練、福祉施設ボランティアに参加していただいている。地域に密着した行動が見受けられる。部活動が地域の活動に参加できる環境にあり、地域の方々からも評価をいただいている。
- ・藤川学区では、まちづくりに於いて大学・高校・中学校を含めて一緒になって今後もやっていきたい。
- ・円の中に「人」と言う字を書くと、三つの空間に分かれる。地域・学校・家庭の三つのサイクルがうまく回れば良い結果が生まれる。今後も更に地域密着型の学校になってもらいたい。
- ・保護者アンケートの意見を反映して、改善すべきところは改善していただきたい。
- ・地域の方が学園祭等に参加できる環境になれば、更に地域密着の学校として特色が出る。